

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社 学研データサービス

②施設・事業所情報

名称：	芹が谷ぴよっこ保育園	種別：	認可保育園
代表者氏名：	園長 小暮 明子	定員（利用人数）：	70（67）名
所在地：	233-0006 神奈川県横浜市港南区芹が谷1丁目38-14		
TEL：	045-821-2346	ホームページ：	https://www.shinryoku-k.or.jp/shimonagaya/
【施設・事業所の概要】			
開設年月日	1972年6月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 新緑会		
職員数	常勤職員： 16名	非常勤職員：	16名
専門職員	保育士 23名	栄養士	2名
	看護師 1名	調理員	2名
	事務員 1名	育児支援員	2名
施設・設備の概要	居室数 保育室6室、 育児支援室1室、調理室、 事務室、相談室、 職員休憩室	設備等	園庭、エレベーター、 図書コーナー、駐車場

③理念・基本方針

＜保育理念＞
社会福祉法人新緑会の運営する芹が谷ぴよっこ保育園は、一人一人の伸びゆく個性を尊重し、可能性を信じて、豊かな人間性を持った子どもの育成を行います。また、保護者や地域社会と力を合わせ、乳幼児の福祉を積極的に増進し、併せて地域における家庭援助を行います。

＜保育方針＞
明るく家庭的な雰囲気の中で、一人一人の子が安心して自己を発揮できるように見守っていきます。基本的な生活習慣を習得しながら、思いやりが育つような環境を整え、温かい保育を目指します。

＜運営方針＞

1. 子どもが想像力を発揮し、友だちとたくさん遊べる環境を整えていきます。
2. 保護者の方が安心してお子様を預けられるよう、ゆったりと安らぎのある、家庭的で温かい保育園を目指し保育します。
3. 地域の方々と積極的に交流を持ち、地域の中の開かれた保育園を目指します。
4. 職員は自己研鑽に励み、保護者の方や地域の方から信頼を得られるように努めます。

＜園目標＞
いきいきと遊ぶ・喜びを感じ合う・自分も友だちも大切にしよう

④施設・事業所の特徴的な取組

芹が谷びよっこ保育園は社会福祉法人新緑会が運営する1972年6月で定員（0歳：9名、1歳：11名、2歳：11名、3～5歳：39名）70名です。小さい保育園ならではの温かい雰囲気の中、子ども達はみな兄弟姉妹の様な関係を作り、生き生きと生活し、たくましく、元気に成長しています。産休明け保育、一時保育、延長保育、障がい児保育を実施しています。リズム運動では外部講師を招きピアノに合わせて自由に表現することを学び、感性を磨いています。園の周囲は豊かな自然や地域との触れ合いを感じることができる環境です。園舎は日当たりが良く、園庭では子どもたちは大型遊具や鉄棒があり思い切り体を動かしのびのびと遊んでいます。保育理念に「明るく家庭的な雰囲気の中で、一人一人の子が安心して自己を発揮できるように見守っていきます。基本的な生活習慣を習得しながら、思いやりの心が育つような環境を整え、温かい保育を目指します。」を掲げています。自分はどうしたいか、お友達はどうしたいか、皆でどうしたら良いかということ自分で考えられるように日々保育を実践しています。職員は、遊びを通じて子どもの主体的な気持ちを尊重し、子どもの思いに共感し子どもの心を尊重し気持ちに寄り添う保育を心がけています。子どもの主体性を育む保育、自然に触れ、健康な心と身体と豊かな感性を育む保育・五感で感じることを大切に日々の保育を実践しています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年6月29日（契約日）～ 2024年2月15日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2018年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

◆多くの体験から子どもの感性を豊かに育む保育を実践しています

園では食育に力を入れ、園庭でプランターを利用したり近隣の小学校から畑を借りて子どもたちはキュウリやナス、スイカなどの夏野菜、ジャガイモ、サツマイモなどを栽培し、調理して食べています。またシロツメクサなど自然の中にあるものを摘んで首飾りを作ったり園庭で収穫したヤマモモでジュースづくりをしたり、0歳児からそら豆のさやむきをし、ジャガイモなど食材を見たり触れたりすることで、食材について知識を得ています。他園との交流や小学校との交流、0歳児から小学校のカメやうさぎを見に行きます。また秋にはミカン狩りや保護者会開催のシャボン玉ショー等多くの体験が出来ます。

◆将来にわたる人材確保に向けて、課題解決に取り組まれることを期待します

当園では、新型コロナ禍、行事について本来の目的に沿った内容に見直すほか、0歳児の受け入れ人数を減らして、業務量の軽減を図りました。職員の事務時間を確保した結果、現在、残業がほぼなくなりました。一方、人材確保は引き続き困難な状況で、将来にわたって保育の質の安定を図っていくためにも、学生など求職者に選ばれる保育園になることが大切です。園長は、保育内容の充実とともに、より一層の働きやすい職場づくりを課題として振り返っています。現在、週休3日制など、新たな試みも検討していることから、ワークライフバランスも見越した労務管理など、課題の解決に向けて取り組まれることを期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

初めて神奈川方式で評価を受け、質問内容等わかりにくい箇所が所々ありました。ヒアリングを受けながら、評価者の方に整理していただき、解決した部分が多々あり助かりました。

また、今回は経営層と全職員それぞれが自己評価を行う方法を選択したため、話し合いの時間等のやりくりがスムーズにできました。ただ、全職員が参加して自己評価を作成することも日頃の保育や経営について考える良い機会になったのではと悩みました。

次回は取り組み方を変えてみたいと思いました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり